研 究 者：島田　啓示（所属：日本大学松戸歯学部　国際保健部）

研究題目：国際保健部の活動について

目　的：

国際保健部は，スタディーツアーや海外の歯科学生との交流，ボランティア活動，勉強会，講演会等を企画，実施し，歯科学生として今，何が出来るかを模索し，実行し，歯科医療における将来の国際協力の在り方について探ることを目的としている。

また，ここ数年は，南太平洋医療隊がJICA（国際協力機構）との共同事業として行っている，JICA草の根技術協力事業フォローアップ型「トンガ王国における学校歯科保健向上のためのプロジェクト」に参加し，グローバルな社会で活躍している歯科医師を間近で見て，国際保健を肌で体感している。

対象および方法：

1. 南太平洋医療隊のトンガでの活動への参加

トンガとのフレンドシップの確立，ヘルスプロモーションの観点から食事，栄養の改善（特に学校給食），学校保健システムの確立，予防歯科保健システムの推進，設備・機材・備品の補助，人材の育成・援助，医療隊の組織の充実，ボランティアスタッフの確保，資金の確保，社会のボランティア活動への理解普及を目的としている。具体的にはトンガ王国内の未就学児，幼稚園児，小学生を対象としたブラッシング指導，フッ化物洗口の指導。オーラルフェスティバルの開催によりトンガ王国の国民への口腔衛生概念の樹立を目指す。本年度は南太平洋医療隊の先生方とスケジュールが合わず，参加することができなかった。よって来年度参加のための準備をすることとなった。

2. 第36回APDSAアジア太平洋歯科学生会議日本大会の運営

APDSA ―アジア太平洋歯科学生会議は，アジア太平洋地域の国々における歯科学生間の国際交流団体であり，APDF ―アジア太平洋歯科連盟（Asia-Pacific Dental Federation）の学生部門として1968年に設立された。1968年に第1回大会を東京で開催してから，2007年度での加盟国は14カ国にまで増え，各加盟国にて毎年8月にアジア・オセアニア地域にて学生レベルでの交流を目的とし，参加学生300名強の年次大会開催と，11～12月に8月の年次大会報告と翌年の年次大会参加募集ならびにAPDSA運営に関することを協議する為にAPDSA全体委員会メンバーと各国代表者ならびに希望者が参加するMYM - ミッドイヤーミーティングを開催している。今年は10年ぶりに日本で開催されることとなり，国際保健部部員5年次片山沙織が大会の実行委員長を務めることとなり，大会開催のための準備，運営を行った。

3. グローバルフェスタへの参加

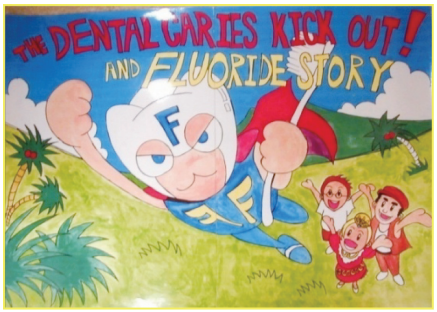
グローバルフェスタとは，毎年 10 月の始めの土曜，日曜に日比谷公園で行われている，国内最大級の国際協力のイベントである。毎年 10 万人以上の人々が来場し，外務省や，東京都，大使館や PKO 等 300 程の様々な団体が参加している。

今年は 2015 年まで差し迫った MDGs を達成するために，それぞれの団体が MDGs のために自分たちには何が出来るかということについて目標を掲げた。その中で南太平洋医療隊は MDG4，MDG5，MDG6，MDG7 について考え，行動することを決めた。

結果および考察：

1. 南太平洋医療隊のトンガでの活動の参加

本年度はトンガでの活動に参加はできなかったが，来年度参加のために紙芝居の作成を行った。この紙芝居はオーラルフェスティバルの開催の際に子供たちにブラッシングの大切さを知ってもらうために作成した。また，トンガの伝統工芸品である樹皮から作られたタパという紙からしおりを作成した。これは松戸祭にて活動報告をした際に見に来てくださった方々に配布した。



左図　紙芝居



右図　トンガでの歯科治療の様子

2. 第 36 回 APDSA アジア太平洋歯科学生会議日本大会の運営

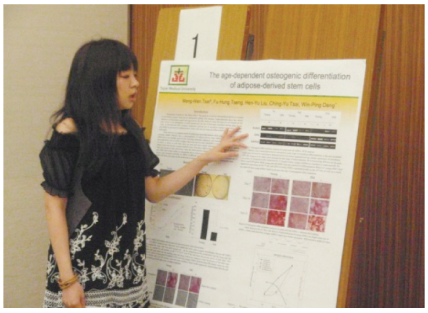
今回の大会は，2010 年 8 月 16-21 日に箱根，船橋で開催された。日本から 64 名，アジアから 375 名，計 439 名の歯科学生が大会に参加した。日本大学松戸歯学部からは 15 名の学生が参加をした。プログラムは学術プログラム，文化交流，病院見学，シティツアーから構成される。

学術プログラムは大きく分けると現在活躍されている先生方による講義と学生が自国で研究を行ったものの研究発表があり，今回は 8 名の先生が講義をしてくださった。学生による研究発表はオーラル形式，ポスター形式にて行われ各国学生よりオーラルプレゼンテーションを 16 演題，ポスタープレゼンテーションを 14 演題と基礎研究・臨床研究においてハイレベルな発表と質疑応答が行われた。プログラムの中にカルチャーナイトと呼ばれる文化交流の場が設けられており，この際はみな伝統衣装を着て参加する。大会中にもっとも盛り上がりを見せるプログラムである。日本は日本舞踊の披露をした。病院見学は日本大学松戸歯学部，東京歯科大学，日本歯科大学，昭和大学歯学部で行われた。それぞれの大学で工夫をこらし有意義な見学を行うことができた。日本大学松戸歯学部では病院見学だけではなく，国際保健部部長である小林清吾先生による講義や，フロリデーション水の試飲なども行われた。大会期間中，イスラム教の学生はラマダン期間であり，日の上っている間は食事が取れないなど文化の違いを感じさせられることも多

くあった。また英語の慣れない日本人にとって大会開催中の会話はすべて英語なため日本人学生はとても苦戦していた。APDSA の魅力はアジアの歯科学生が一堂に介し寝食を共にし，共に学ぶことでたった 5 日間であるが，交流を深めることが出来ることである。日本人学生は今回苦労したが，このような大きな大会を成功させることが出来たことは大変有意義であったと考える。今年はタイで大会が開催される。多くの学生の参加を願っている。



左図　シティツアーの様子



右図　SRC（Scientific Research Competition）

3. グローバルフェスタへの参加

ここ数年毎年参加しており，今年も多数の部員と参加した。自分たちは南太平洋医療隊のメンバーとして，トンガの公衆衛生の現状や，そのために自分達がしている活動（マリマリプログラムや現地で行ったオーラルヘルスフェスティバル，障害者施設における口腔ケア等）について，数多くの来場者に説明した。時間の空いた者は UNHCR やフリーザチルドレン等，自分の興味のある分野のブースを訪問し，勉強した。





成果発表：

2010 年 8 月　　JAICOH 学生部会　発表
2010 年 10 月　　日本大学松戸歯学部「松戸祭」
　　グローバルフェスタ発表
2011 年 1 月　　国際保健部研修会にて発表